

朝日新聞 × 立命館 自分史講座

本講座は、ご自身の半生を振り返り、歩んできた軌跡を書き残したいと考える方を対象に、「自分史」作成の入門を学ぶことを目的としています。朝日新聞「自分史ノート」を教材とし、自分史作成の意義や書き方のコツなどを幅広く学びます。

会場 立命館 東京キャンパス (東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー 8階)
時間 13時00分～14時30分 (1時間半)
受講料 15,000円 (全5回受講) ※各回だけの受講は受付けていません
※教材費含む
定員 50名 ※定員を大きく超えて申込があった場合、先着順に受講生を決定します

CR academic center of RITSUMEIKAN

講師 ・朝日新聞社 朝日新聞メディアラボ 自分史編集委員
・立命館大学 瀧本和成 (立命館大学 教養教育センター長・文学部教授)

第1回

11/28(火)

「自分史とは何か」

自分史を作るとはどういうことか。イラストレーターの山藤章二氏の『自分史ときどき昭和史』(岩波書店)、朝日自分史で実際に作成された本、朝日自分史で本をまとめた人たちの声を紹介しながら、自分史の魅力とツボを伝えます。

第2回

12/12(火)

「自分史作りの第一歩、年表・構成作りのコツと実践」

自分史を作るにはどうすればよいか、をやさしく解説していきます。第一歩は、年表を作るところからはじまります。完璧に正確でなくてもかまわないので、いつどんなことがあったかを思いつくままとめていきましょう。

第3回

12/26(火)

「文豪の自伝的作品・政治家の自伝を巡って―漱石、鷗外、青木周蔵―」

夏目漱石『道草』、森鷗外『大発見』、青木周蔵『青木周蔵自伝』を取り上げ、三者の比較を行いながら、作家や政治家が自伝(的)作品を書く理由や意図を時代的・社会的背景等を視野に入れながら追究します。

第4回

1/9(火)

「自分史作り、文章のコツと実践」

4回目は、これまでにねりあげてきた構成をもとに、文章を書いていきます。「その人にしか起こっていない、その人しか考えないこと、その人しか思いつかないこと」を読みやすく書くために最低限押さえておきたい要諦を伝えます。

第5回

1/23(火)

「写真選びのコツと実践」

朝日自分史では文章だけでなく、写真や手紙などのさまざまな資料を収録して完成となります。写真を選ぶ際にはどんなことに気を付ければよいのか、プライバシーや肖像権、著作権はどう考えればよいのか、などを解説していきます。

R
RITSUMEIKAN

【お問合わせ・お申込み先】(受付時間：月～土曜日 9時～17時半)

立命館東京キャンパス 公開講座事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー 8F

TEL：03-5224-8188 ※お電話でのお申込みはできません。

FAX：03-5224-8189

メール：tokyo-kz@st.ritsumeai.ac.jp (公開講座専用)

URL：http://www.ritsumeai.ac.jp/tokyocampus/course_guide/

